

被災地応援職員の派遣に係る時間外勤務手当について

総務課

1 事業概要

7月豪雨で甚大な被害を受けた被災地に応援職員を派遣しました。
土曜日及び日曜日、平日の時間外勤務があり、予備費から予算を充用しました。

2 派遣の詳細

(1) 7月豪雨（広島県）

○派遣先 広島県呉市

○派遣期間 7月21日（土）から8月5日（日）まで

○派遣職員

第1陣（7月21日から25日まで）

- ・総務課 課長補佐 住吉康弘
- ・上下水道課 主事 入江佳吾

第2陣（7月29日から8月2日まで）

- ・町民生活課 主任 荒井猛
- ・税務課 主事 西村蓮

第3陣（8月2日から5日まで）

- ・上下水道課 主事 池本貴生
- ・税務課 主事 田口彩

○従事内容 住家の被害認定業務

(2) 7月豪雨（岡山県）

○派遣先 岡山県倉敷市

○派遣期間 7月22日（日）から25日（水）まで

○派遣職員 総務課 主事 福田真幸

○従事内容 避難所運営支援業務

3 予備費からの充用額 111,357円（時間外勤務手当）

公共施設等総合管理計画に係る個別施設計画の策定について
(無作為抽出方式の導入)

総務課

1 個別施設計画の策定方法について

公共施設等総合管理計画に係る個別施設計画については、平成 32 年度末までに策定するよう国より要請が行われている。

琴浦町では、本年度、「ふなのえこども園・成美地区公民館複合化施設」に係る個別施設計画の策定をすることとしていたが、「直営による全施設の個別施設計画の策定」及び「無作為抽出方式による住民意見」を取り入れた策定を行うよう 9 月補正にて必要経費の予算組み替えを行う。

2 無作為抽出による住民参加とその効果

「無作為抽出方式」とは、従来の委員などの選定方法である「公募方式」、「推薦・充て職方式」とは異なり、無作為で抽出した住民に案内を送付し、その中の希望者が行政の取り組みに参加する方法である。

無作為で委員等を抽出するため行政と接点の少なかった人など広範囲な住民の参加が望め、実施後は、「税金の使い方への関心度」や「行政や議会への関心度」などの意識の変化が期待される。

無作為抽出方式は、構想日本（民間シンクタンク）の支援によりこれまでに高松市、門真市、奈良市、静岡県など 45 自治体以上で取り組まれている。

※詳細は、別紙のとおり

3 個別施設計画策定スケジュール（予定）

時期	項目
9 月上旬	個別施設計画の原案策定
10 月～	無作為抽出による施設仕分け（仮称）準備 ・職員研修 ・無作為抽出による「仕分け人」選任作業 ・仕分け人研修 ・外部コーディネーター等による施設担当者からの施設利用状況のヒアリング
2 月（予定）	公共施設仕分け（仮称）の実施
3 月（予定）	個別施設計画のパブリックコメント

4 今後の予定

9 月議会にて必要となる経費を補正予算にて上程予定。

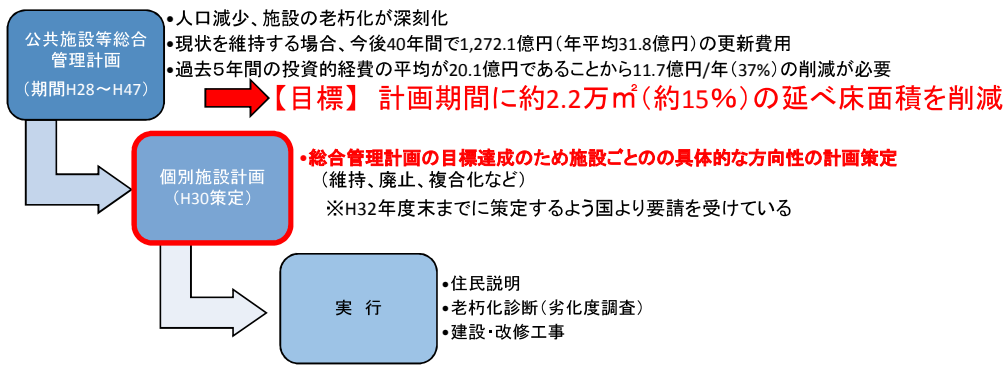
（補正額：2,496 千円 内訳：委託料 2,150 千円、その他委員報酬等 346 千円）

（関連するその他の補正（△2,448 千円）

- ・既存予算の請負差額による不要額の減額（△537 千円）
- ・個別施設計画策定委託料について直営での策定とするため減額（△1,620 千円）
- ・個別に施設のあり方意見聴取をするための経費の減額（△291 千円）

公共施設等総合管理計画に基づく個別施設計画の策定

公共施設等総合管理計画と個別施設計画



個別施設計画の内容

公共施設等総合管理計画に基づく計画期間の個別施設の具体的な方針を示すもの。

- 施設ごとに方向性
維持、廃止、複合化、統合などの方針
- 計画期間の更新費用の試算など
統廃合などを進めたうえでの更新費用の試算

政策優先度などから施設の方向性を示すものであり、計画策定時より行政内部の意見だけでなく住民の意見を反映する必要がある。

→ **無作為抽出による住民意見を反映**

(3) 施設の環境評価(2次評価)および基本方針・整備手法・実施時期の検討

表 36 その他施設2の環境評価(2次評価)および基本方針・整備手法の検討

施設ID	施設名称	施設の方向性	政策優先度	基本方針	耐震基準	耐震診断	耐震性	耐震改修年	施設整備手法
10001		維持	高	機能保持	新	—	—	—	維持管理の効率化
10002		改善	高	機能保持	新	—	○	—	維持管理の効率化
10003		改善	低	耐震コントロール	旧	未	△	未実施	撤却
10004		維持	高	機能保持	旧	未	△	未実施	撤却
10005		維持	高	機能保持	新	—	○	—	長寿命化
10006		維持	高	機能保持	新	—	○	—	維持管理の効率化
10007		維持	高	機能保持	新	—	○	—	長寿命化
10008		改善	低	耐震コントロール	旧	未	△	未実施	撤却
10009		維持	高	機能保持	新	—	○	—	長寿命化
10010		改善	低	耐震コントロール	旧	未	△	未実施	撤却
10011		維持	高	機能保持	新	—	○	—	維持管理の効率化
10012		維持	高	機能保持	新	—	○	—	長寿命化
10013		改善	低	耐震コントロール	新	—	○	—	集約化

JAPAN INITIATIVE
構想日本

行政への市民参加の手法

これまで

公募方式

広報紙等で募集し、住民からの応募によって決める方法。

<特徴>

意識の高い人の声を聞くことができる一方で、利害関係者などが手を挙げ、参加者が特定の人に固定化する傾向。

推薦・「充て職」方式

団体からの推薦や首長の一本釣りによって決める方法。

<特徴>

専門性の高い人や地域の有力者を選ぶことができる一方、毎回団体の長を選ぶことによる形骸化や参加者の固定化などの課題あり。

これから

公募方式

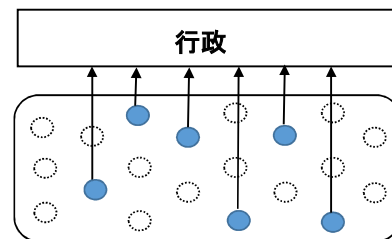
推薦・「充て職」方式

無作為抽出方式

無作為で抽出した市民に案内を送付し、その中の希望者が行政の取組みに参加する方法。

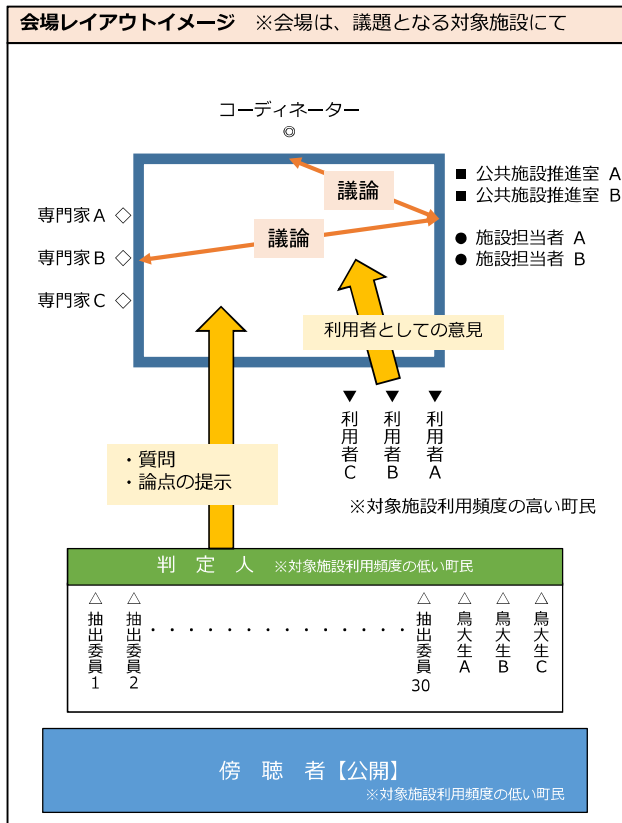
<特徴>

行政と接点の少なかった人、参加を躊躇していた人など、広範な市民の参加を望める。



参加手法を一つ追加するだけで、市民と行政の距離が大きく近づく可能性。

公共施設仕分け(仮称)



(1) 議論メンバー

- ◎ コーディネーター (1名、構想日本より)
- ◇ 専門家 (3名程度、構想日本より)
- 施設担当課職員 (若干名)
- 公共施設推進室 (2名)
- ▼ 利用者 (若干名)

(2) 判定人

- △ 無作為抽出による住民 (30名程度)
- △ 鳥大生 (3名程度)

(3) 進行方法<2h/テーマ>

- ① 公共施設推進室からの趣旨説明
- ② 「議論メンバー」による議論
 - ・「コーディネーター」による全体進行
 - ・「専門家」が質問し、町(施設担当者)が回答
 - ・利用者としての意見
- ③ 「判定人」からの質問・論点の提示
 - ・判定人(町民)の疑問点など
- ④ 「判定人」による判定(判定シートの記入)

【ポイント】

外部の者が「コーディネーター」、「専門家」を務めるため、行政主導の会の進行とならない。
判定人(町民)は、公平な視点でどうあるべきか「自分事」として考え、判定する。

3

無作為抽出での住民参加の現状

構想日本は無作為抽出での住民参加の取り組みを、

48自治体で109回実施してきた。

市民判定人方式の事業仕分け(2009年～) 46自治体で96回
住民協議会(2014年～)

- 福岡県大刀洗町: 条例設置した町長諮問機関として4回実施。
- 浜松市: 内閣府主催による住民協議会(浜松市と構想日本が協力)。
- 伊勢原市議会会派・恵庭市議会会派: 会派主催の住民協議会実施。
- 茨城県行方市、千葉県富津市、香川県三木町、滋賀県高島市: 地方創生の総合戦略策定や総合計画策定のために実施。

16.8万人に案内を送付し、**約7700人**が参加可能と返事。

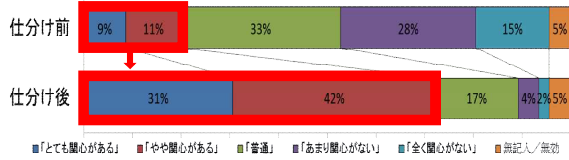
応募率は**約4.6%**。

(2018年3月末)

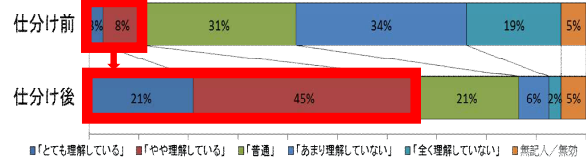
参考：市民判定人アンケート

① 各項目における事業仕分け参加前後の意識・行動の変化

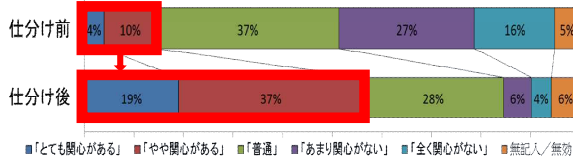
設問 1) 税金の使い方への関心度



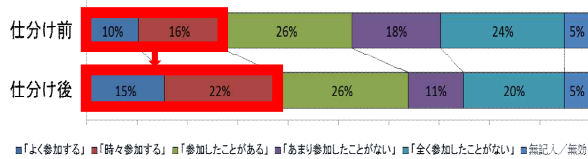
設問 2) 行政の事業の内容についての理解度



設問 3) 行政や議会の情報への関心度



設問 4) 地域づくりに関わる集まりに参加する頻度



※2009年～12年に実施した事業仕分け市民判定人方式（のべ35自治体）において判定人を務めた2846人が対象。回答率43.4%。

【その他の変化】

1. 事業仕分けへの参加によって行政の応援団に変わる。
2. 「利用者」「受益者」の視点に「納税者」の視点が付け加わる

5

無作為抽出での住民参加の成果

意識の変化

1. 非常にためになりました。いろいろな意見が出て納得する部分が多く、とても楽しい時間でした。この取組はとてもいいと思います。また是非来たいと思いました！
！（伊勢原市、30代女性）
2. 市が事業仕分けや市民判定人方式を採用されたことは、すばらしく思います。市民と一緒に築こうとする取組に共感します。行政、議会だけでなく、市民参加型議会もあれば良いかと。難しい議論よりも身近なことを市民は望んでいると思います。（加古川市、50代男性）
3. コーディネーターの話が大変良く、理解することができた。また、役場の職員の前向きな考えがよく伝わってきた。（三木町、50代男性）
4. この半年間、これほど自分のふるさとのことを考えたことはなかった。（行方市、50代女性）
5. 今回たまたま市民の中から選ばれて参加できることになってとても良い機会だったと思い感謝しています。ただ何も知らず考えることもなかった行政だったり税金の使い方を知る事ができました。（銚子市、40代女性）

行動の変化

1. 参加した市民の有志メンバーで、この地域の役に立てることを考える会を結成。今後NPO法人化を目指す。（行方市）
2. 協議会に参加して以降、地域のことを「自分事」として考えることの必要性を感じて、自分が住む地域の「女子会」(勉強会)を結成。（富津市、40代女性）
3. 学校への関わりが必要だと感じ、PTA会長の選挙に立候補、就任。（大刀洗町、40代男性）
4. 行政の仕事に関心を持ち、公務員採用試験を受験。（大刀洗町、20代女性）
5. 協議会に参加したことで、心の病を患った自分の経験を活かせることもあると感じ、子育ての悩み相談に関するサークルを立ち上げた。（太田市、30代女性）

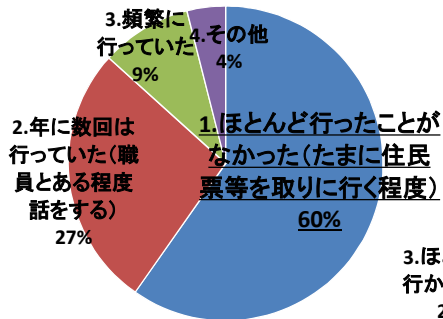
一つのテーマについて3～4回継続的に議論する住民協議会では、意識だけでなく行動の変化が起きている。

6

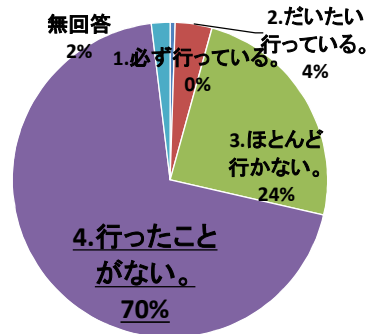
無作為抽出で参加する市民の特徴(1)

○「事業仕分け」に市民判定人として参加した住民へのアンケート結果※より。

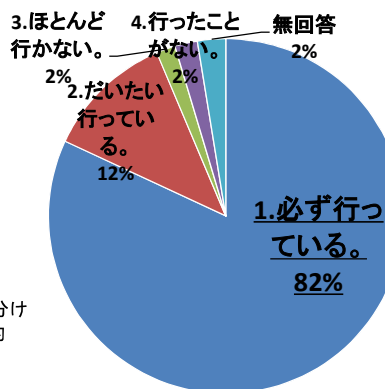
事業仕分け以前の役所との関わり頻度



議会の傍聴に行きますか?



選挙の投票に行きますか?

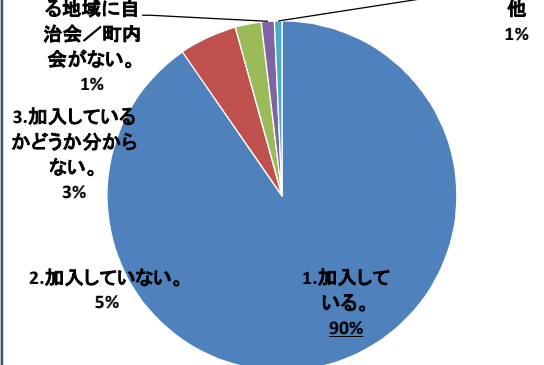


※2013,14年度に市民判定人方式で事業仕分けを実施した12自治体の市民判定人経験者約1100名が対象。回答率52%。

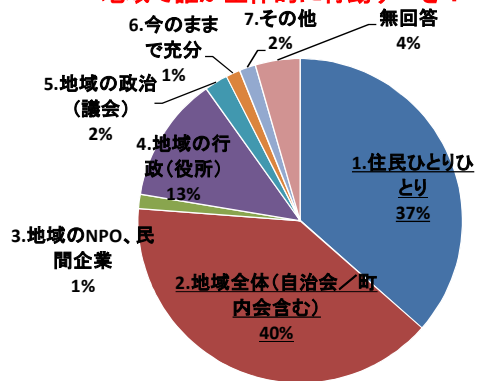
7

無作為抽出で参加する市民の特徴(2)

自治会への加入状況



地域で誰が主体的に行動すべき?



アンケート結果から見てくる参加住民の特徴

1. 役所との接点が少ない
2. しかし、投票や自治会加入など社会的な関心は高い
3. 自助、共助の意識がきわめて高い

これまで、行政も政治もこの層へのアプローチができていなかったのではないかと

8

ふるさとハローワーク琴浦（仮称）の開設について

総務課

1 事業概要

鳥取労働局及びハローワーク倉吉と連携し、平成31年1月（予定）に役場本庁舎厚生棟1階にハローワークを常設します。

就業に関する相談や事業所への紹介、最新の求人情報の提供など、職業相談・職業紹介サービスを行います。（詳細については鳥取労働局と調整中）

2 事業効果、町との一体的実施

- ・ 東伯郡西部における職業相談、職業紹介、職業訓練相談等の利便性向上が図られるとともに、町内企業の求人について速やかな対応が図られます。
- ・ 役場庁舎敷地内に設置することにより、障がい者・生活困窮者等の福祉に関する就業をはじめ、女性、高齢者等、町の雇用に関する業務と連携を図ることができます。
- ・ ハローワークと町との一体的実施を行うため、今後、運営協議会を設置します。

3 開庁時間及び取扱業務（予定）

○開庁時間：平日（月～金）8：30～17：15

○業務内容

- ・ 就職に関する相談・事業所への紹介
- ・ パソコンによる求人検索 ・最新の求人情報の提供
- ・ 就職に関する各種情報の提供 ・求人の取り次ぎ など

4 その他

3名の職員が常駐予定です。

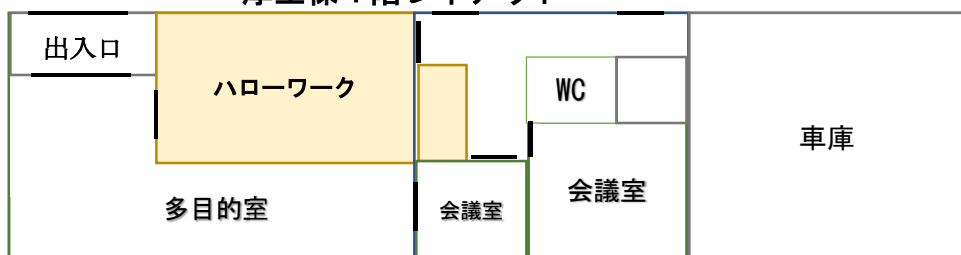
開設にかかる庁舎改修費、電気代などは鳥取労働局が負担します。

厚生棟多目的室の使用料は、琴浦町と労働局の連携事業のため無償です。

県内の同様施設は下記のとおりです。

- ・ 鳥取県ふるさとハローワーク八頭（鳥取県八頭庁舎）
- ・ ふるさとハローワーク境港（境港市役所）

厚生棟1階レイアウト



東伯郡消防連合演習の実施について

総務課

1 事業概要

琴浦町倉坂地内での林野火災を想定し、中部消防局員及び郡内各消防団員が約100名、消防ポンプ車11台が出動し、各町消防団相互の連携と災害活動技術の向上を図るため、訓練を実施します。

2 訓練想定

琴浦町倉坂地内の町道倉坂西峯線沿いで林野火災が同時多発的に発生。初動の活動隊での延焼防止を図るが、強風により周囲に延焼拡大したため、各関係機関へ応援要請を行い、消防活動を実施する。

3 訓練日時及び参加団体

- 日時：平成30年8月26日（日）午前10時～正午
- 参加団体：琴浦町消防団32名・ポンプ車5台（第4・5・8・9・10分団）
北栄町消防団9名・ポンプ車1台（第1分団）
湯梨浜町消防団14名・ポンプ車2台（第5・7分団）
三朝町消防団9名・小型動力1台（第6分団）
琴浦消防署14名・ポンプ車1台
湯梨浜消防署14名・ポンプ車1台
倉吉消防署4名

4 訓練配置図

